

## 報 告 書

### タイ王国マヒドン大学、チュラロンコン大学及びコンケン大学訪問並びに 4th Khon Kaen University and University of Shizuoka joint symposium on medical and pharmaceutical sciences 参加報告

1月28日、大学間・学部間の研究交流促進のため、大学間協定校であるマヒドン大学と学部間協定校のチュラロンコン大学薬学部を訪問し、薬学部長らと意見交換を行うとともに、薬局等の施設見学を行った。両学ともに学生の国際インターンへの参加を強く奨励していたことが印象に残っている。また、化学系の研究が盛んであったこと、大学内に GMP レベルの生産工場があったことより、東南アジアにおける製薬戦術とマーケットの様相を垣間見ることができたのは大きな収穫であった。

1月29日には、コンケン大学薬学部を訪問し、薬学部長ら職員と学生と面談、意見交流を行った。1月30日は、コンケン大学医学部にて行われた第4回コンケン大学・静岡県立大学合同シンポジウムに出席し、口頭発表を行った。本学会は、当学とコンケン大学との交流を深めるための合同シンポジウムであり、各々が医薬学的知見をもって発表を行った。コンケン大学の教授および生徒たちの発表は、特定の疾患モデルに対する特定の化合物の応用を想定しており、より実用的な検討を行っている印象を受けた。私は接触皮膚炎の発症に関する分子機構の解明についての発表を行った。コンケン大学には、様々な疾患を専門としている先生方がおり、中でも皮膚疾患を専門とする先生から頂けた質問やアドバイスはとても参考になるものであった。

私にとって初めてであった英語を用いた研究発表と質疑対応は大きな刺激であり、英語力のみならず、科学的内容を論理立てて説明する力の不足を感じたと共に、臨床応用の可能性、その際に考えられる有害事象に関する知見など、もっと細部まで検討していかなければいけないと実感した。この経験をしっかりと私のこれからの研究活動に生かしていきたいと思う。



薬食生命科学総合学府 薬科学専攻  
博士前期課程1年 免疫微生物学教室  
市澤 拓実